

深井戸水中ポンプ制御盤

BFL / BFS 型

警告

この説明書を読んで理解するまでは、制御盤の操作および保守・点検を行わないでください。
この説明書は、制御盤の操作または保守・点検を行う場合、いつも調べられるように
大切に保管してください。

設備工事を行う皆様へ

この説明書は、制御盤の操作・保守・点検を行うお客様に必ずお渡しください。

保証の限定

1. 保証期間中、正常なご使用にもかかわらず、テラル株式会社が納入した機械の設計または工作の不備が原因で故障、破損が発生した場合に限り、その部分について無償で修理または交換をします。
2. 前項による保証範囲は、不具合部分の機械的保証までとし、その故障に起因する種々の出費およびその他の損害の補償はいたしません。
3. 以下の故障、破損の修理および消耗品(当初から消耗の予想される部品)は有償とさせていただきます。
 - (1) 故障、破損が当社の納入していない機器が原因で発生した場合
 - (2) 保証期間経過後の故障、破損
 - (3) 火災、天災、地震等の災害および不可抗力による故障、破損
 - (4) 当社に承諾なしで実施された修理、分解、改造による故障、破損
 - (5) 指定品以外の部品をご使用された場合の故障、破損
 - (6) 仕様範囲外での使用による故障、破損
4. 深井戸水中ポンプ制御盤の誤用や乱用が原因で発生した損害については、保障期間内であっても一切補償致しません。また、このことによる技術員の派遣費用は、有償とさせていただきます。
5. 不具合の原因が不明確な場合は、協議の上処置を決定することとします。
6. 製品に使用している部品は性能向上の為、一部予告なしに変更する場合があります。また、修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品や、同等の機能を有する代用品を使用することがあります。

本書の目的・お願い

1. 本書の目的は、深井戸水中ポンプ制御盤について正しい操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
分解・修理等、特別に専門知識が必要な内容につきましては、本書には記載しておりません。修理が必要な場合は、必ずテラル株式会社または関連のサービス会社へご依頼ください。
2. 本書の内容に関しては、以下の方を対象に制作しております。
 - ・ 深井戸水中ポンプ制御盤の操作経験者または操作経験者から指導を受けた人
 - ・ 配線工事は、電気工事士等の資格を有する人
3. 本書の内容は、主として標準仕様の製品について記載しておりますので、特殊仕様の製品をご購入された場合には、製品と本書の記載内容が異なる場合があります。その場合は、別途納入仕様書等で製品仕様をご確認ください。
4. 製品仕様および取扱説明書の内容は将来予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
5. 本書では、わかりやすく説明する為に、製品を一部省略または抽象化して表現しております。このため、本書に記載している図が実際の製品と異なる場合があります。

もくじ

1. 安全について	1-1
1.1 警告用語と図記号の説明.....	1-1
1.2 安全上の注意.....	1-1
2. 構成と概要	2-1
2.1 構成.....	2-1
2.1.1 外形図.....	2-1
2.1.2 操作部の名称と機能.....	2-2
2.1.3 機器構成.....	2-2
2.2 仕様.....	2-3
3. 据付け	3-1
3.1 ご使用の前に.....	3-1
3.2 据付け時の注意事項.....	3-2
3.3 配線工事の注意事項.....	3-2
3.3.1 電源配線.....	3-2
3.3.2 計装関係.....	3-3
4. 運転について	4-1
4.1 電気系統の確認.....	4-1
4.2 電源投入.....	4-1
5. 制御について	5-1
6. 警報について	6-1
6.1 警報表示灯.....	6-1
6.2 テストトリップの方法.....	6-1
6.3 警報出力.....	6-2
6.4 ポンプ保護用静止型リレーの表示説明.....	6-2
7. 保守・点検	7-1
7.1 保守・点検の注意事項.....	7-1
7.2 保守点検表.....	7-2
8. 不具合発生時の対応方法について	8-1
9. 内部結線図	9-1
9.1 BFL.....	9-1
9.2 BFS.....	9-2





1. 安全について

ご使用になる前に、この「安全について」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
以下に示す内容は、製品を安全に正しくお使いいただき、危険や損害を未然に防止する為に、非常に大切なものです。

1.1 警告用語と図記号の説明

取扱説明書では、危険度の高さ(被害・損害の程度および警告の緊急性)に従って、警告用語を4段階に分類しています。また、図記号を用いて使用者に対する指示の種類を示しています。
本書では以下の表示を使用しています。内容を充分理解した上で、本文をよくお読みください。

■警告用語表示の説明

警告用語	意味
 危険	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡もしくは重傷を負うに至る、切迫した危険な状態を示します。
 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される場合を示します。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う、または物的損害が発生することが想定される場合を示します。
 注記	特に注意を促したり、強調したい情報を示します。














■図記号の説明

 禁止	 接触禁止	 分解禁止	 ぬれ手禁止	 水ぬれ禁止
これらの図記号は禁止(してはいけないこと)を示します。				
 強制	この図記号は指示する行為の強制(必ずすること)を示します。			
 注意	 感電注意	 回転注意	 高温注意	
これらの図記号は注意を示します。				

1.2 安全上の注意

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

 危険	
 	主電源投入後は制御盤内外の通電部分には触れない 通電部には高電圧が印加されており、感電すると大変危険です。

 警告	
 制御盤の操作は、現場責任者から作業許可を与えられた人だけがおこなう 未熟な人が操作すると不慮の事故につながるおそれがあります。	 据付・保守・点検の実施は、必ず制御盤の取り扱い指導を受けた人がおこなう 未熟な人が実施すると不慮の事故につながるおそれがあります。
 電気工事に関する作業については、電気工事士等の有資格者以外は実施しない  感電・火災・故障等のおそれがあります。	 良質の配線機器を使用し、電気設備技術基準および内線規程にしたがって安全・確実にこなう  感電・火災等のおそれがあります。
 配線作業時には必ず元電源を遮断し、電源表示灯が消灯している事を確認後に実施する  感電のおそれがあります。	 電源供給元には必ず本装置専用の漏電遮断器を設置する  感電・火災等のおそれがあります。
 アース線を確実に取り付け、接地工事は必ずおこなう  漏電・感電のおそれがあります。	 ガス管・水道管にアース線を接続しない 感電・爆発・火災の原因となり、また法律で禁じられています。

⚠ 警告

<p>! 配線接続部・結線部はゆるみがないことを確認する 火災・感電の原因となります。</p>	<p>! 保守・点検を実施する前には必ずポンプを停止し、分電盤の元電源を遮断する ⚡ 感電・けが・破損・漏水等のおそれがあります。</p>
<p>! 運転および保守点検を実施する時は、関係する作業員に周知させ、危険な箇所に作業者がいないことを確認する 不慮の事故につながるおそれがあります。</p>	<p>! 運転中は、必ず制御盤の扉を閉める ⚡ 感電・火災等のおそれがあります。</p>
<p>⊘ 運転動作・部品等に異常がある状態で運転しない けが・故障・各種事故の原因となります。</p>	<p>! 分解を伴う点検や部品交換、修理などは専門業者または弊社指定のサービス窓口に依頼する ⊘ 専門知識が必要な作業は、未熟な人が実施すると事故・故障の原因となります。</p>

⚠ 注意

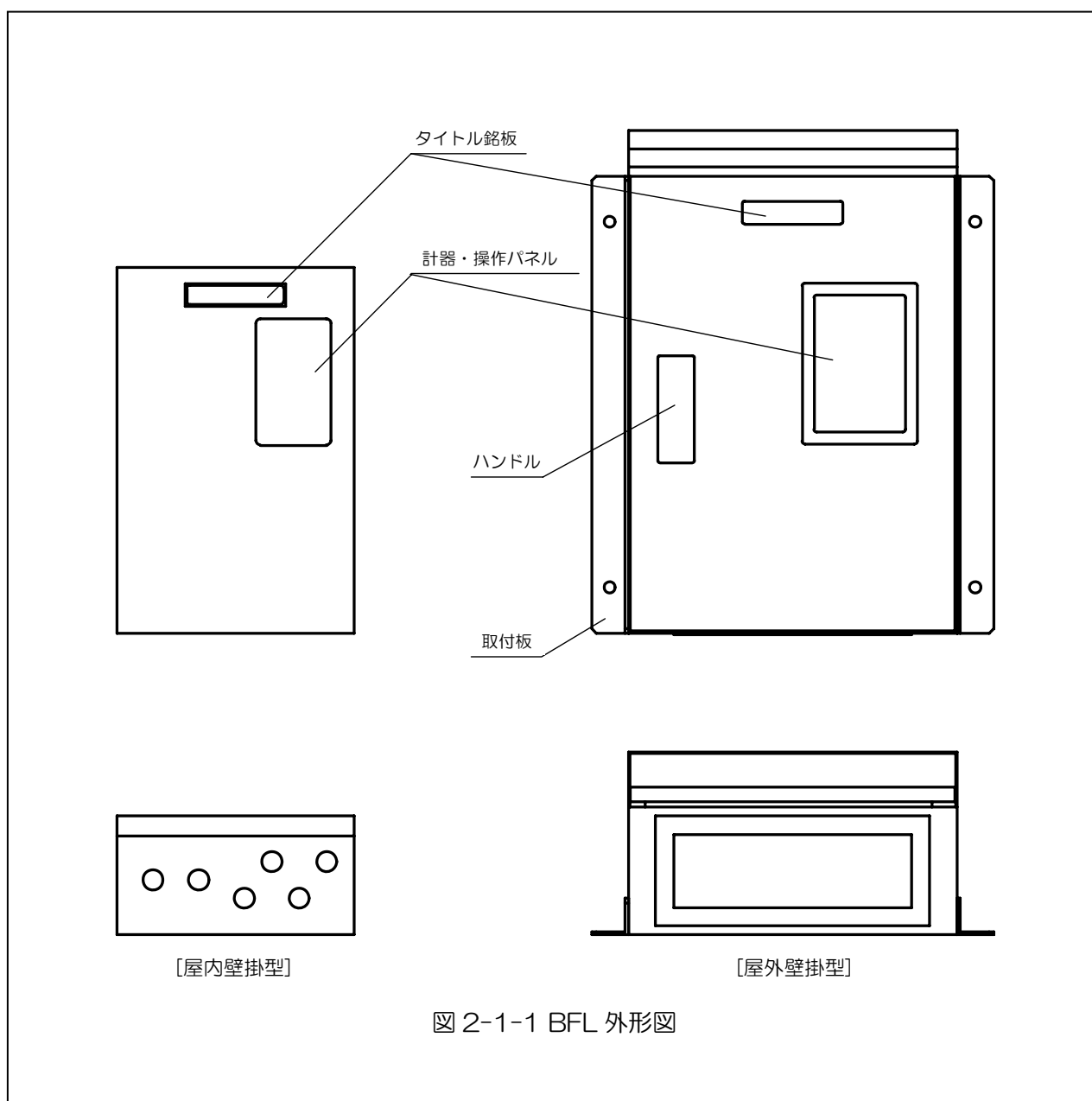
<p>⊘ 決められた製品仕様範囲外では使用しない 感電・火災・漏水・故障等の原因となります。</p>	<p>⊘ 電源電圧を間違えて使用しない 電源電圧を間違えて使用すると制御盤が破損します。</p>
<p>⊘ 重要設備・生命の維持に直接かわる所へは単独で使用しない 故障により断水のおそれがあります。必ず予備機を準備してください。</p>	<p>! 開梱時には天地確認し、特にクギを使用している場合、注意して丁寧におこなう けが・破損のおそれがあります。</p>
<p>! 各操作部はていねいに操作する けが・破損のおそれがあります。</p>	<p>⊘ 同一管内またはダクト内に他のケーブルや制御線を併設させない 本製品や他の機器が誤動作するおそれがあります。</p>
<p>⊘ 制御盤へは絶縁抵抗試験をおこなわない(電動機の絶縁抵抗試験時には配線を制御盤から外す) 制御盤破損のおそれがあります。</p>	<p>! 配線入線処理の際には保護具を装備し、板金の切断部に注意する けがのおそれがあります。</p>
<p>⊘ 制御盤の2次側配線に進相コンデンサを取り付けない ポンプ保護用静止型リレーの不要動作の原因となります。</p>	<p>! 制御盤の各種設定は使用状況に応じて正しく確実に おこなう 正常な運転が出来なくなるおそれがあります。</p>
<p>! 復旧できない警報発生時や何らかの異常がある場合にはすみやかに弊社またはサービス会社へ連絡する 事故に繋がるおそれがあります。</p>	

2. 構成と概要

本章では標準仕様について説明しています。ご要望により特殊仕様の製品をご購入された場合には一部内容が異なる場合がありますので、別途納入仕様書等でご確認ください。

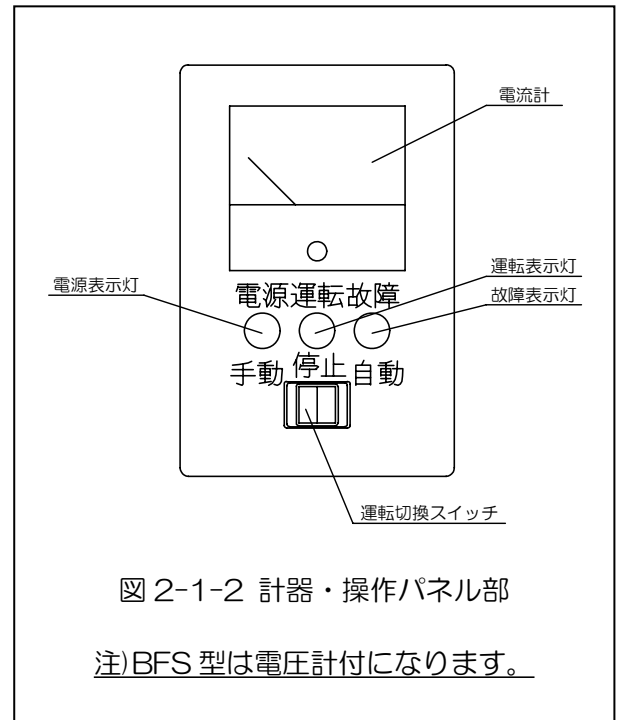
2.1 構成

2.1.1 外形図



2.1.2 操作部の名称と機能

- ① 運転切換スイッチ
 - 手動位置
選択中は連続運転を行います。
ポンプ故障・減水(※1)発生時にはポンプ保護のため強制停止となります。
 - 停止位置
いかなる場合もポンプの運転を行いません。
 - 自動位置
起動条件により自動的に運転と停止を行います。(⇒5.制御について 参照)
ポンプ故障・減水(※1)発生時にはポンプ保護のため強制停止となります。
- ② 電源表示灯(白色)
電源供給されているとき点灯します。
- ③ 運転表示灯(赤色)
ポンプ運転中に点灯します。
- ④ 故障表示灯(橙色)
ポンプ故障中に点灯します。
- ⑤ 電流計
ポンプ運転電流値を示します。

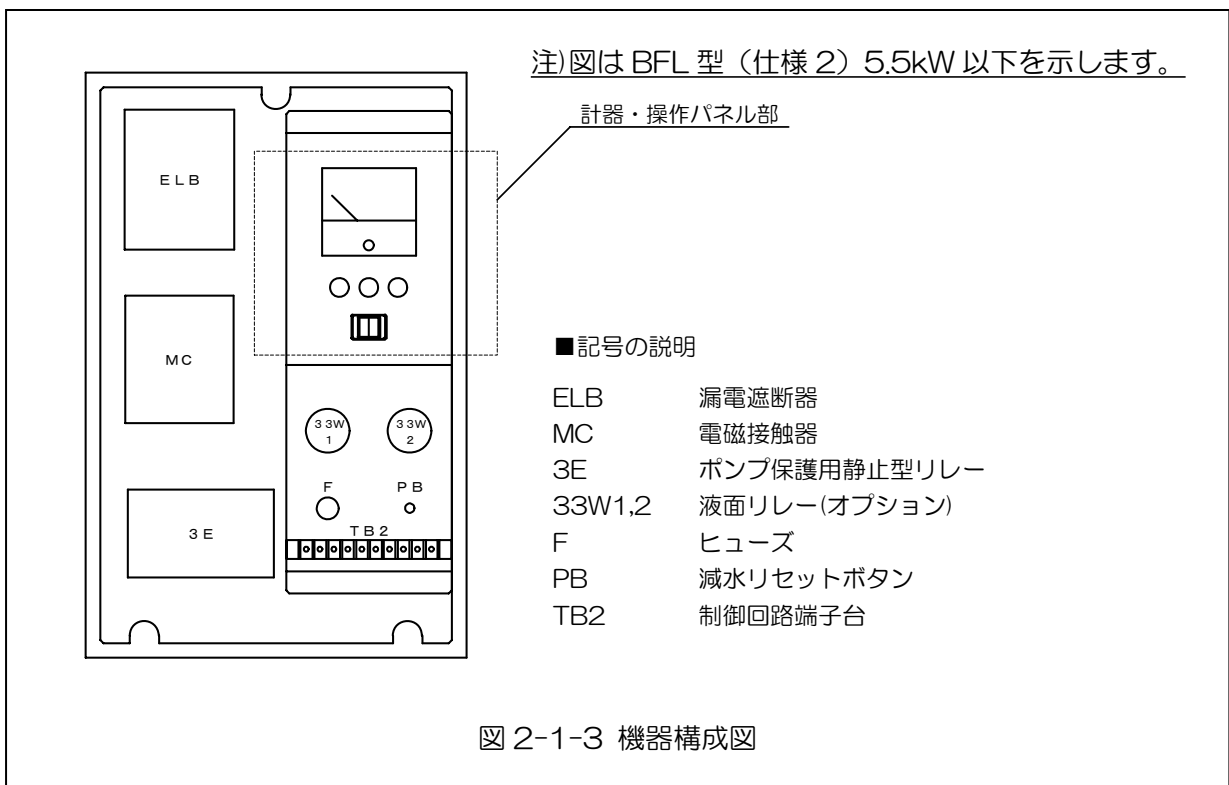


※1 液面リレー-33W1を使用する場合に検出します。

2.1.3 機器構成

警告

通電中は制御盤内各部に高電圧が印加されており、大変危険です。
感電のおそれがありますので、有資格者以外は制御盤の扉を開けないでください。



2.2 仕様

標準品をお買い上げのお客様は標準仕様の欄をご覧ください。その他に、お客様のご希望により特殊仕様として変更したものがありましたら、納入仕様書をご参照ください。



決められた製品仕様以外でのご使用は行わないでください。
感電・火災・漏水および製品故障の原因となります。

表2-2 標準仕様

標 準 仕 様		標 準 仕 様	
型 式		BFL	BFS
構 造 ・ 設 置 取 付 方 法		鋼板製・屋内壁掛型／屋外壁掛型／屋外自立型	
周 囲 温 度		0～40℃	
周 囲 湿 度		85%以下	
使 用 電 源		三相 200/200-220V : 50/60Hz {許容範囲：±10%以内 相間アンバランス 3%以内}	
始 動 方 式		直入始動 (0.37～11kW)	スターデルタ始動 (11～45kW)
運 転 方 式		単独運転方式	
制 御 方 式		井戸水位方式	圧力タンク方式 高架水槽方式


			BFL	
			仕様 1	仕様 2
漏 電 遮 断 器			—	○
主 回 路 開 閉			電磁接触器	電磁接触器
電 動 機 保 護 リ レ ー			静止型リレー (3E リレー)	静止型リレー (3E リレー)
液 面 制 御			用途別に 33W1・33W2 を選択	用途別に 33W1・33W2 を選択
機能	手 動 時 空 転 防 止		○	○
盤面	電 流 計		○	○
	表示灯	電 源	○	○
		運 転	○	○
		故 障 (過負荷/欠相/反相)	○	○
出力	有電圧	減 水	33W1 使用時のみ	33W1 使用時のみ

			BFS	
			仕様 1	仕様 2
主 回 路 保 護			MCB	ELB
主 回 路 開 閉			電磁接触器	電磁接触器
電 動 機 保 護 リ レ ー			静止型リレー (3E リレー)	静止型リレー (3E リレー)
液 面 制 御			用途別に 33W1・33W2 を選択	用途別に 33W1・33W2 を選択
機能	手 動 時 空 転 防 止		○	○
盤面	電 流 計		○	○
	電 圧 計		○	○
	表示灯	電 源	○	○
		運 転	○	○
		故 障 (過負荷/欠相/反相)	○	○
出力	有電圧	減 水	33W1 使用時のみ	33W1 使用時のみ

○印は標準対応、—印は非対応となります。

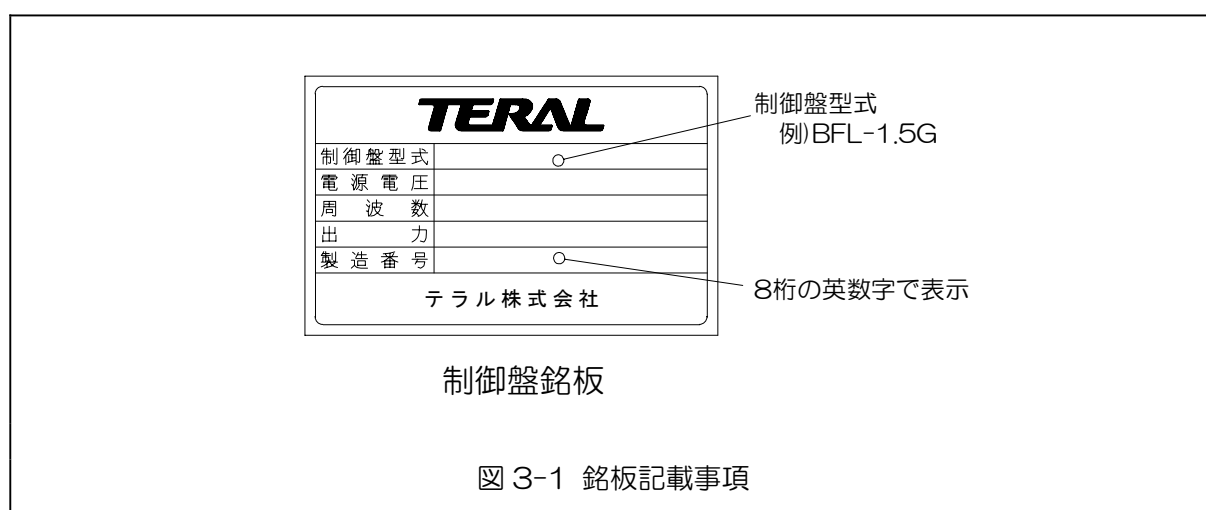
3. 据付け

3.1 ご使用の前に

 注意	❗ 開梱時には天地を確認のうえ、特に木枠梱包はクギに注意して開梱してください。けがをするおそれがあります。
注記	開梱後、不要となりました梱包材は専門の業者へ依頼のうえ、処分してください。

深井戸水中ポンプ制御盤がお手元に届きましたら、開梱後、すぐに次の事項を確認してください。

(1) 銘板記載事項がご注文通りの物かどうか。





(2) 輸送中に破損した箇所はないかどうか。

(3) ご注文された付属品が全てそろっているかどうか。









3.2 据付け時の注意事項

- (1) 次の条件を満足する場所に設置してください。
 - ・ 通気の良い、埃や湿気の少ない場所
 - ・ 周囲温度が0℃～40℃、湿度85%以下の範囲である場所
 - ・ 関係者以外が容易に出入りしたり操作したりできない場所
- (2) 安定した場所に、強固に固定してください。
- (3) 修理・点検が容易に行えるよう、周囲に60cm以上のメンテナンススペースを設けてください。

3.3 配線工事の注意事項

 警告		配線は、良質の配線機器を使用し、電気設備技術基準および内線規程にしたがって、安全かつ確実に行ってください。 配線工事は必ず電気工事士等の有資格者が実施してください。 無資格者による配線工事は、法律で禁じられています。
---	---	--

3.3.1 電源配線

 警告		電源供給元には必ず本機専用の漏電遮断器を設置してください。感電・火災の原因となります。
 警告		制御盤には、必ずアース線を確実に取り付け、接地工事は必ず行ってください。
 警告		ガス管あるいは水道管にアース線を接続することは、法律で禁止されており、また、非常に危険です。
 注意		同一管内またはダクト内に他のケーブルや制御線を併設させないでください。

- (1) 深井戸水中ポンプ制御盤の1次電源側には必ず本機専用の漏電遮断器を設置してください。
制御盤に漏電遮断器を内蔵している場合は、内蔵している漏電遮断器の容量を確認し、保護協調を考慮して電源側漏電遮断器を選定してください。
- (2) 感電防止のため、必ずアース線を取付けてください。
アース線は制御盤内のアース端子に接続してください。
- (3) 制御盤内の電源端子台（BFL型仕様2は漏電遮断器）に、一次側電源を配線接続してください。
配線は金属管または金属ダクトに入れてシールドを施し、管の外被はアースしてください。
- (4) 電圧の変動は定格電圧の±10%以内、周波数は±5%以内におさえてください。
その範囲を超えてご使用になりますと、故障の原因になりますので注意してください。
また、電源電圧が定格電圧より低い状態では、仕様流量範囲内でも過負荷となる可能性があります。
- (5) ポンプを運転する前に次の点を再度確認してください。
 - ・ 適切な漏電遮断器が接続されていること。
 - ・ 配線に間違いがないこと。
 - ・ 確実にアースしてあること。
 - ・ 電動機端子の接続が緩んだり外れたりしていないこと。電動機端子の接続が不十分である場合、電動機が焼損するおそれがありますのでご注意ください。

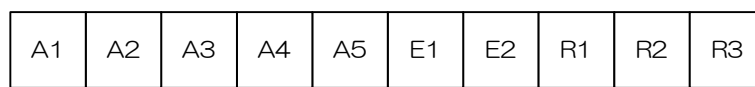
3.3.2 計装関係

井戸用電極および高架水槽電極棒への配線については「5. 制御について」を参照のうえ接続してください。



制御盤と電極間の許容配線距離は、電線サイズ0.75mm²の場合500m以下です。
それ以上の配線距離になる場合は、お問合せください。

液面リレー(33W1)を追加する場合は、必ず、端子台(TB2)の「A1」-「A2」間の短絡片を外してください。



短絡片




図 3-3-2 出荷時短絡図



井戸用に電極を設置して空転防止を行う場合は、必ず短絡片を取り外してください。
短絡片が接続された状態では空転防止が動作しません。







4. 運転について

4.1 電気系統の確認

 警告	 	配線変更などの作業を実施する場合は、必ず分電盤の電源を遮断し、電源表示灯が消灯していることを確認した後に実施してください。感電するおそれがあります。
---	--	--

- (1) 配線が正しく行われていることを確認してください。
- (2) 端子にゆるみがないか、締め付けを確認してください。
- (3) 確実にアースされていることを確認してください。

4.2 電源投入

 危険	 	電源を入れた後は、以下に記載した操作箇所以外の部品に触れないでください。感電するおそれがあります。
 警告	 	濡れた手で制御盤を操作しないでください。感電・ショートのおそれがあります。

- (1) 制御盤の扉を開けてください。
- (2) 運転切換スイッチを「停止」にしてください。
- (3) 分電盤の元電源を投入してください。
- (4) 電源表示灯が点灯していることを確認してください。
- (5) 運転切換スイッチを「手動」、もしくは「自動」にして運転を開始してください。

5. 制御について

液面リレー(33W1,2)の有無、結線方法により次の制御が選択可能です。
以下の図 5-A-1～図 5-C-3 に制御回路端子台との接続を示します。

表 5 制御例

例 No.	制御方式	空転防止	空転復帰	減水警報	33W1	33W2	図 No.
1	井戸水位方式	あり	自動	あり	使用	不要	5-A-1
2	圧カタンク方式 (外部起動信号方式)	なし	—	—	不要	不要	5-B-1
3		あり	手動	あり	使用	不要	5-B-2
4		あり	自動	あり	使用	不要	5-B-3
5	高架水槽方式	なし	—	—	不要	使用	5-C-1
6		あり	手動	あり	使用	使用	5-C-2
7		あり	自動	あり	使用	使用	5-C-3

注記

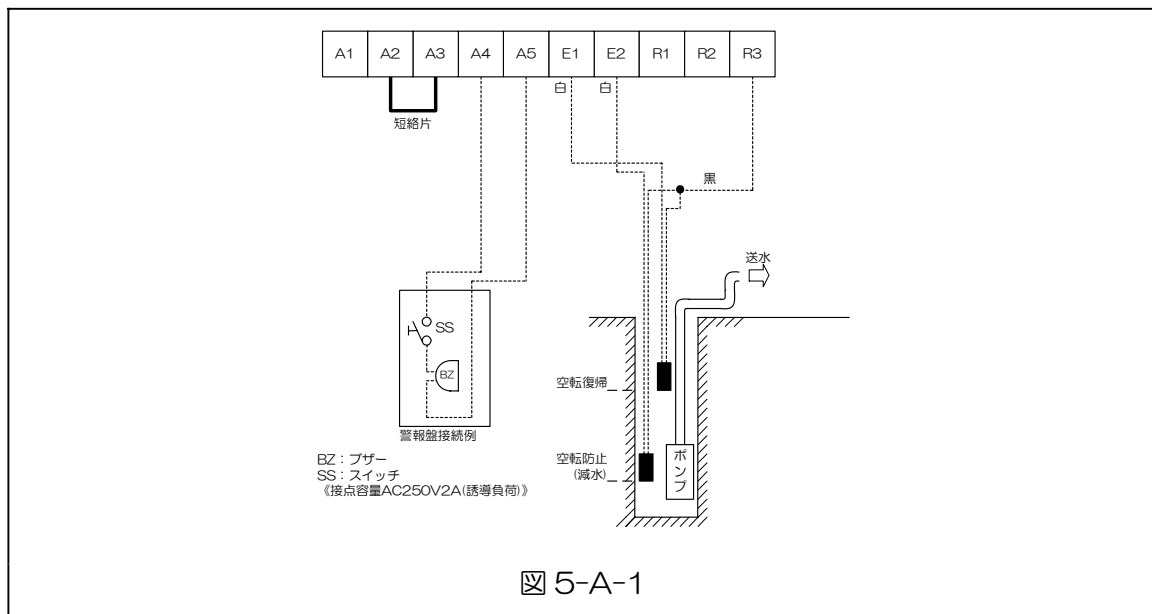
空転復帰の電極を使用しない場合は、水位復帰後に制御盤内のリセットスイッチ(PB)を押すことで、空転防止を解除してください。

注意



井戸電極用としてMA電極を使用される場合は、必ず黒線をR3端子に接続してください。

[井戸水位方式]



[圧カタンク方式]

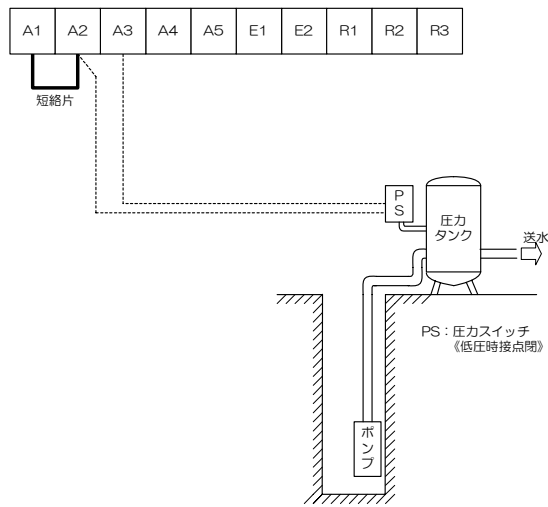


図 5-B-1

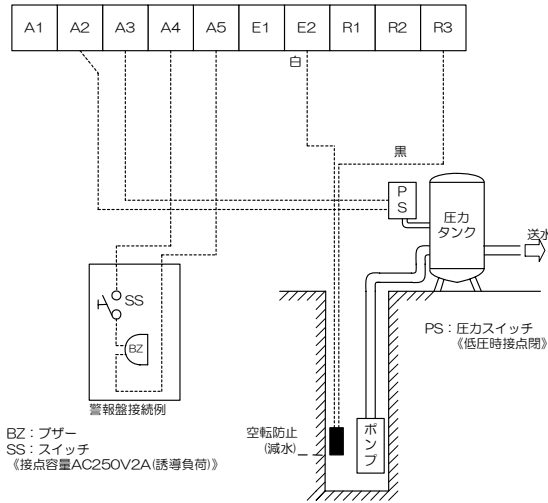


図 5-B-2

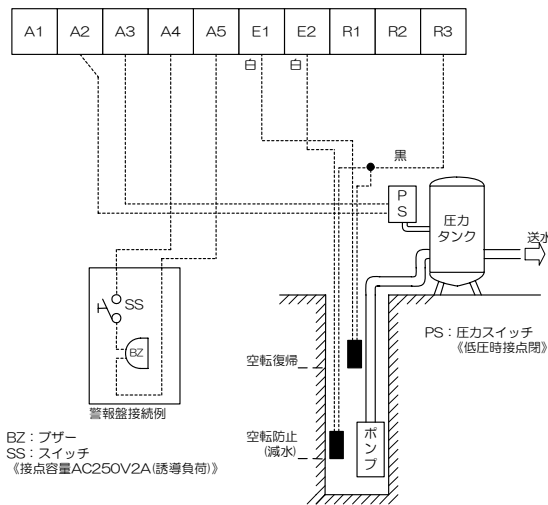


図 5-B-3

[高架水槽方式]

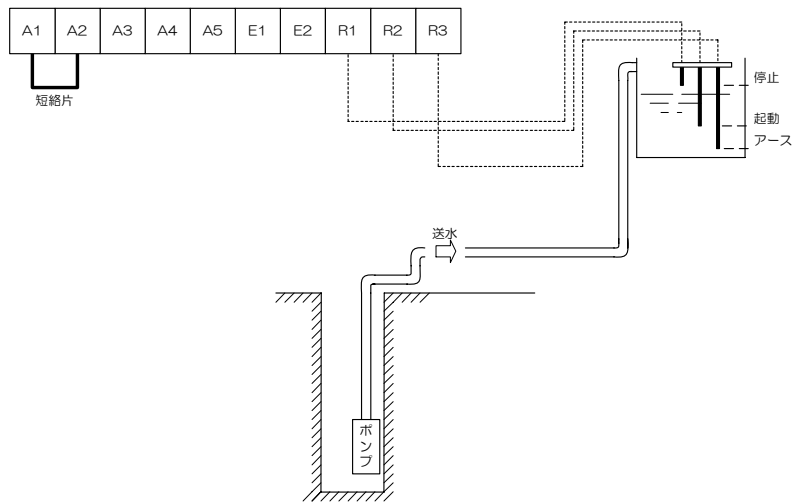
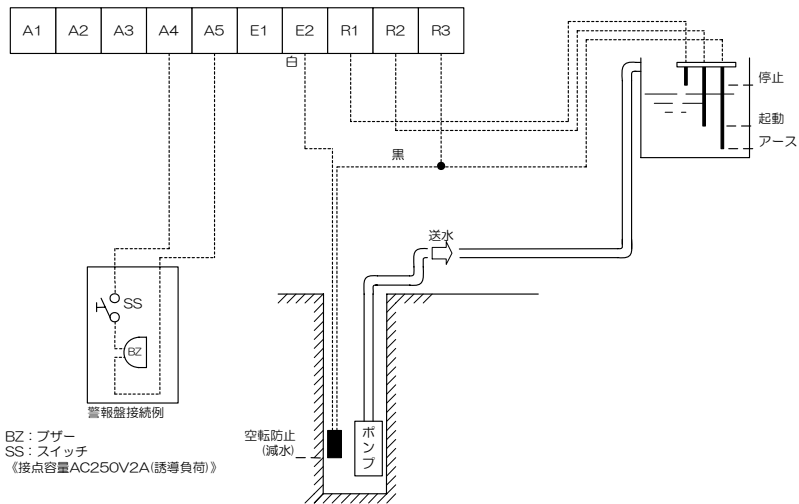
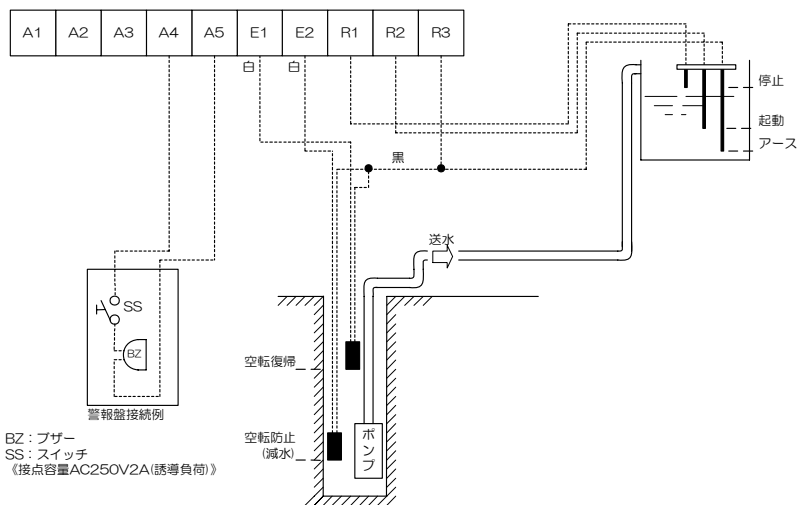


図 5-C-1



BZ : ブザー
SS : スイッチ
《接点容量AC250V2A(誘導負荷)》

図 5-C-2



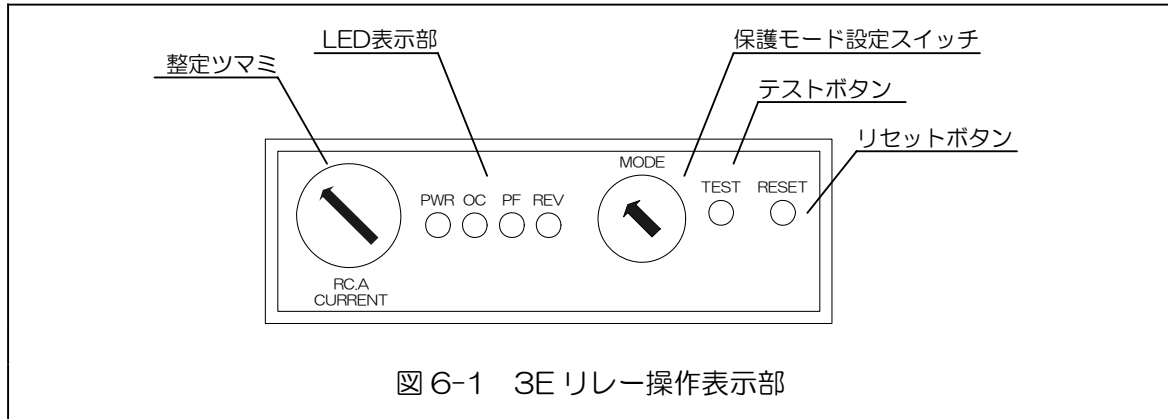
BZ : ブザー
SS : スイッチ
《接点容量AC250V2A(誘導負荷)》

図 5-C-3

6. 警報について

6.1 警報表示灯

操作パネル部の故障表示灯はポンプ保護用静止型リレー(以下3Eリレー)がトリップすると点灯します。トリップの内容は3Eリレー操作表示部のLED点灯動作により区別できます。(表6-4)



- | | |
|-----------|---|
| 注記 | 原因を取り除いた後に、3Eリレーのリセットボタンを押してください。 |
| 注記 | 過負荷トリップの場合は負荷保護のためトリップ後5分間はリセットできません。 |
| 注意 | ❗ 調整ツマミは必ずポンプの定格電流値に設定してください。ポンプ保護ができない恐れがあります。 |
| 注意 | ❗ 保護モード設定スイッチは必ず[0]に設定してください。ポンプ保護ができない恐れがあります。 |

6.2 テストトリップの方法

3Eリレー操作表示部のテストボタンを押し続けると模擬的に過負荷保護機能が動作します。ポンプの緊急停止、制御盤操作パネル部の故障表示灯の点灯確認が容易に行えます。

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| 注記 | 動作確認後は必ず3Eリレーのリセットボタンを押して故障復帰させてください。 |
|-----------|---------------------------------------|

6.3 警報出力

液面リレー(33W1)を用いて、井戸水位による空転防止を行っている場合は減水(空転防止)信号を有電圧(電源電圧)で出力します。

空転復帰用の電極を使用している場合は、井戸水位が空転復帰水位以上となると自動的に解除します。空転復帰用の電極を使用していない場合は、井戸水位が空転防止水位以上の状態で、制御盤内のリセットボタン(PB)を押すことで解除できます。

接続例は「5.制御について」を参照してください。



注意



減水警報端子への接続機器はAC250V 2A(誘導負荷)以下としてください。

6.4 ポンプ保護用静止型リレーの表示説明

表 6-4 3E リレーのLED 表示部説明

表示区分	表示	状態
通常	PWR OC PF REV ● ○ ○ ○	停止
	PWR OC PF REV ● ◐ ○ ○	ポンプ運転中
テスト	PWR OC PF REV ● ○ ○ ◐	テストトリップ
異常	PWR OC PF REV ● ● ○ ○	過負荷
	PWR OC PF REV ● ○ ● ○	欠相
	PWR OC PF REV ● ○ ○ ●	反相
	PWR OC PF REV ◐ ○ ○ ○	自己診断異常

記号説明・・・○消灯 ●点灯 ◐点滅

7. 保守・点検

7.1 保守・点検の注意事項

深井戸水中ポンプ制御盤の保守・点検は、「7.2 保守点検表」に従い、行ってください。



日常点検・定期点検は、保守点検表に従って必ず行ってください。点検を怠ると、故障を未然に防ぐ事ができず、事故に繋がるおそれがあります。また製品寿命も短くなります。



点検により異常が発覚した場合にはすぐに運転を中止し、原因を復旧するか、弊社またはサービス会社へ連絡してください。事故の原因となります。

■日常の点検の際、特に次のような点に注意してください。

- ① 自動運転の動作に異常がないか、確認してください。
- ② 制御盤の接点・端子などのゆるみ、水滴などの混入がないかどうか、確認してください。

7.2 保守点検表







 警告	 分解・整備を伴う点検の際には、必ず元電源を遮断してください。感電するおそれがあります。また、自動運転などでポンプが急に起動することがあり、非常に危険です。
 注意	 専門知識のある修理技術者以外は分解を行わないでください。分解を伴う点検や部品交換、修理などは、専門業者または弊社指定のサービス窓口に依頼してください。誤った作業を行うと、事故や故障の原因となります。
 注意	 制御盤へは絶縁抵抗試験を行わないでください。また、電動機の絶縁抵抗試験時には配線を制御盤から外してください。制御盤故障のおそれがあります。
注記	消耗部品の交換時期の目安は正常に使用され、定期的に点検された場合の標準値です。使用状況によっては短くなる場合があります。
注記	修理・交換により発生した廃棄部品等は、専門の業者へその処置を依頼してください。

表7-2 保守点検表

項目	点検調整箇所	点検項目	点検方法	判断基準	点検周期			消耗部品の交換時期の目安		
					日常	6ヶ月	1年	消耗部品	数量	交換時期
環境	温度	仕様の範囲内	測定	0~40℃以内	○					
	湿度		測定	0~85%RH以下 結露のないこと	○					
	ほこりなど		目視	ないこと	○					
電源	電源端子台*1	電圧	測定	規定電圧が印加されていること	○					
		電圧変動	測定	許容変動範囲内であること	○					
制御盤	パネル表示灯	点灯確認	目視	異常のないこと	○					
	運転動作	自動運転動作	目視	異常のないこと	○					
	電源端子台*1 制御回路用端子台	ネジのゆるみ	増締	ゆるみのないこと			○			
		発熱のあと	目視	変色してないこと			○			
	動力線	ほこりの付着、損傷	目視	ほこりの付着、損傷 なきこと			○			
	扉	開閉	手動	スムーズであること			○			
	構造・外観	絶縁物	目視	割れ変形のないこと			○			
	電磁接触器	ネジのゆるみ	増締	ゆるみのないこと			○	電磁接触器	1	3年に1回
		接点の消耗	目視	厚さ新品の2/3以上			○			
		接点の接触状態	目視	接触面がなめらかであること						
ヒューズ	熔断	目視	熔断していないこと	○						

※1 BFL型仕様2の場合は漏電遮断器が対象になります。

8. 不具合発生時の対応方法について



復旧できない警報発生時やその他何らかの異常が発生した場合には、すぐに運転を停止し、弊社またはサービス会社へ連絡してください。事故に繋がるおそれがあります。連絡時には、銘板記載内容・異常の状況について確認の上、お知らせください。

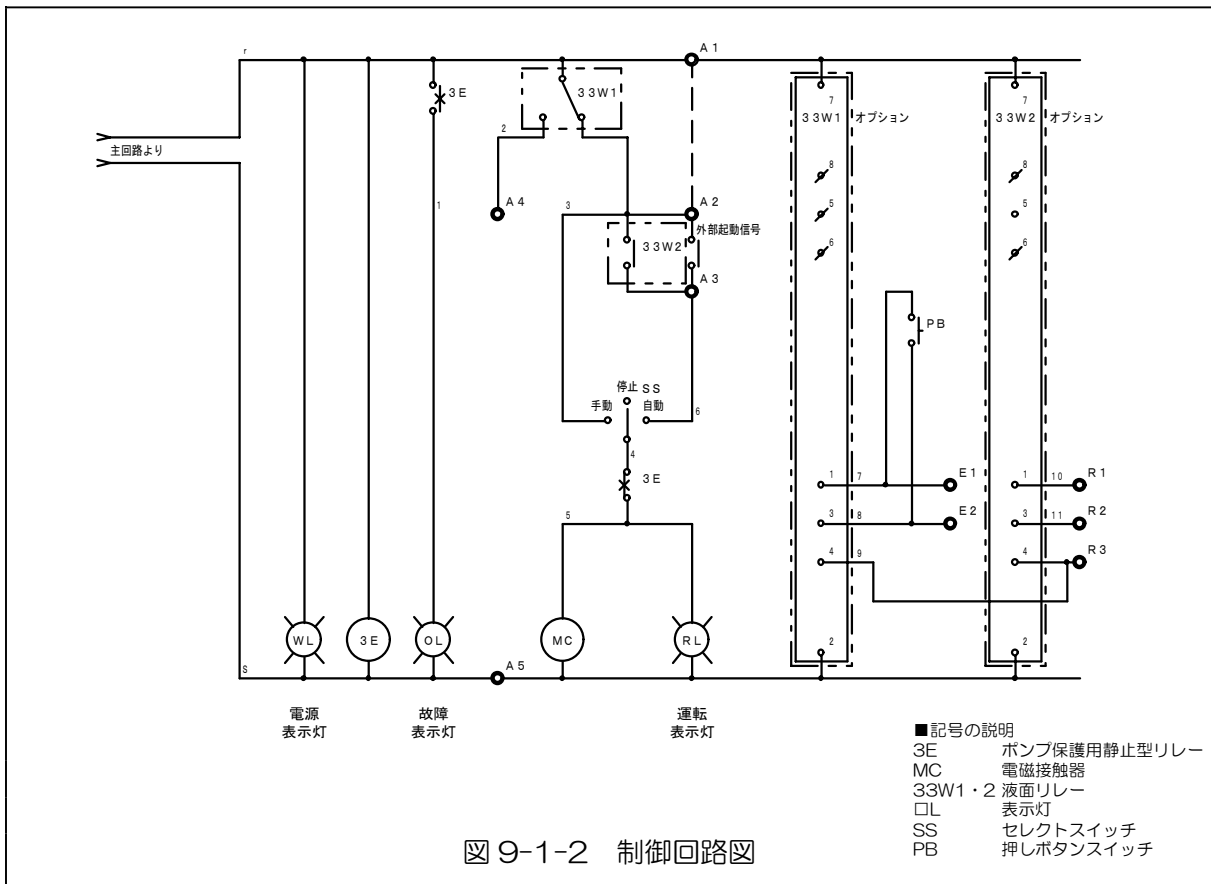
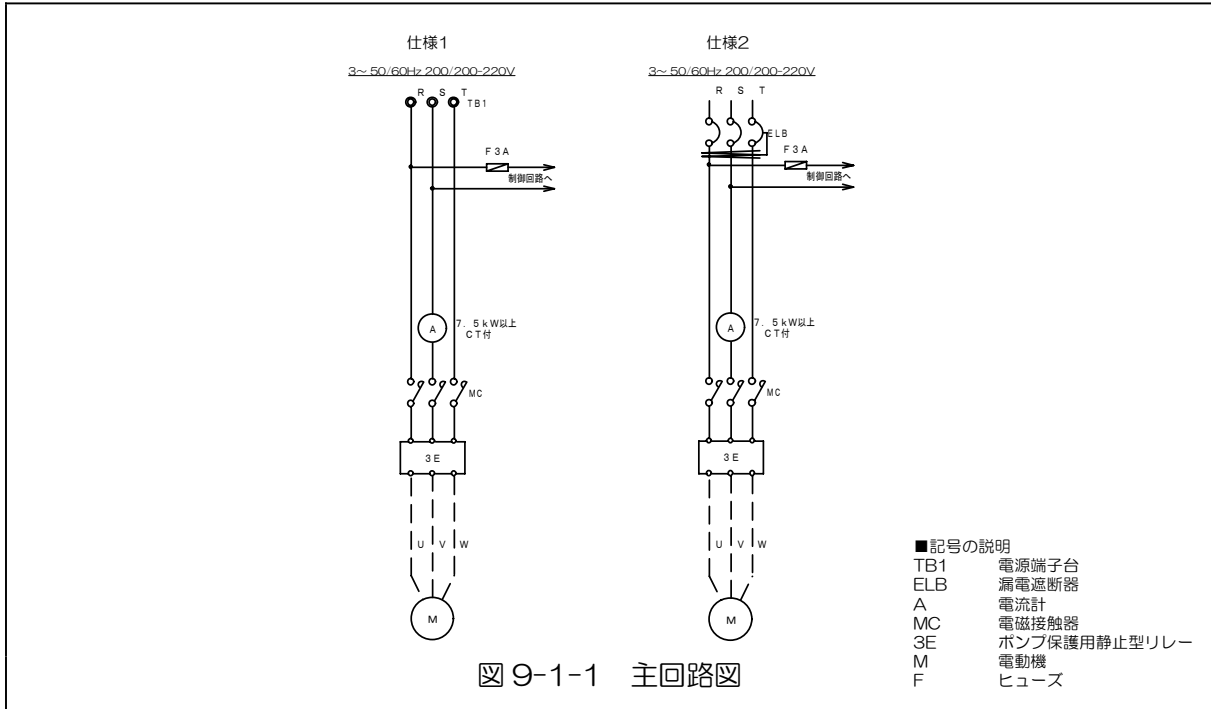
表8 トラブルの原因と対策

内容	推定原因	対策
電源表示灯が点灯しない	電源が供給されていない。	電源を供給する。
	配線の不良。	配線の点検、修理。
	ヒューズが溶断している。	ヒューズの交換。
	部品の機械的な破損。	点検、部品の交換。
ポンプが運転しない	電源が供給されていない。	電源を供給する。
	異常を検出している。	異常原因を解除する。
	運転切換スイッチが「停止」になっている。	「手動」もしくは「自動」に切替える。
	配線の不良。	配線の点検、修理。
	部品の機械的な破損。	点検、部品の交換。

9. 内部結線図

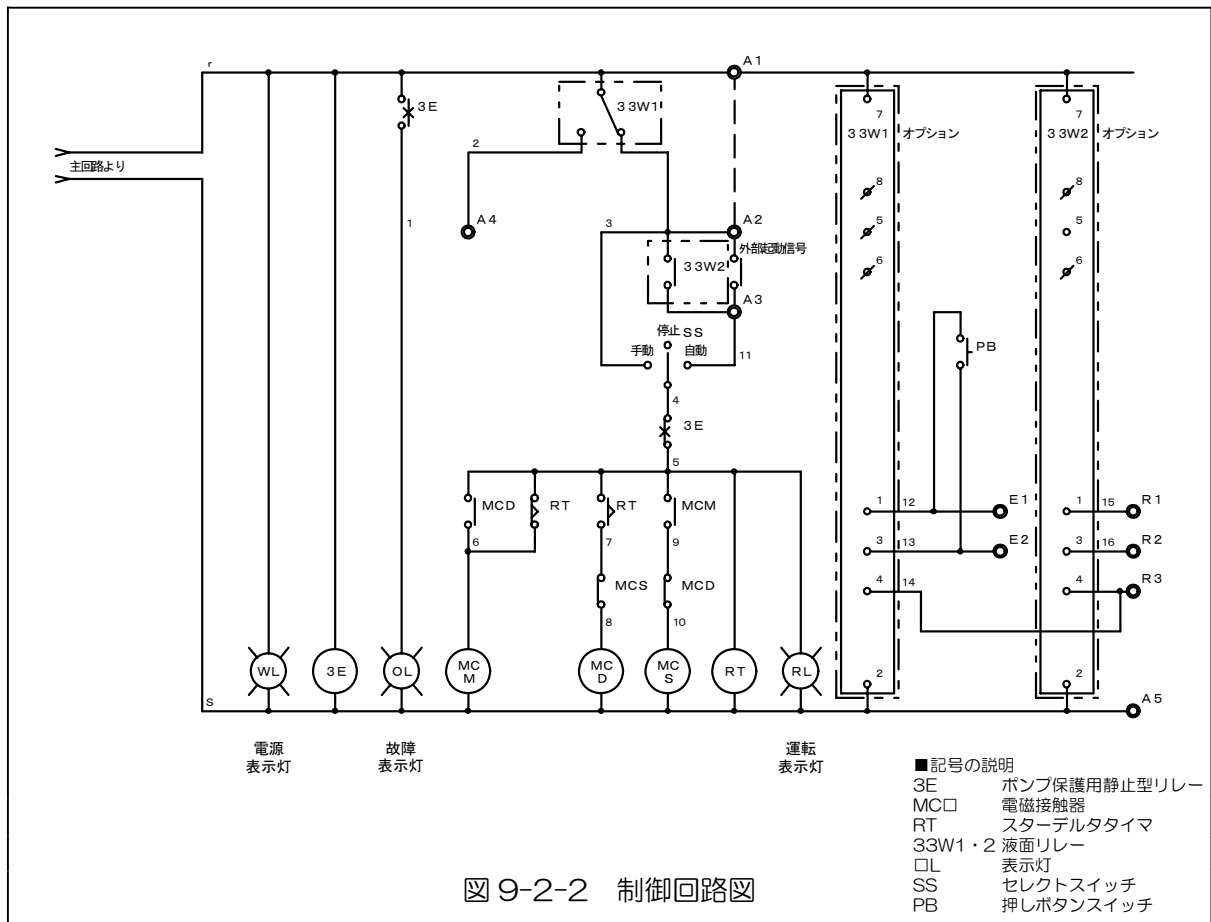
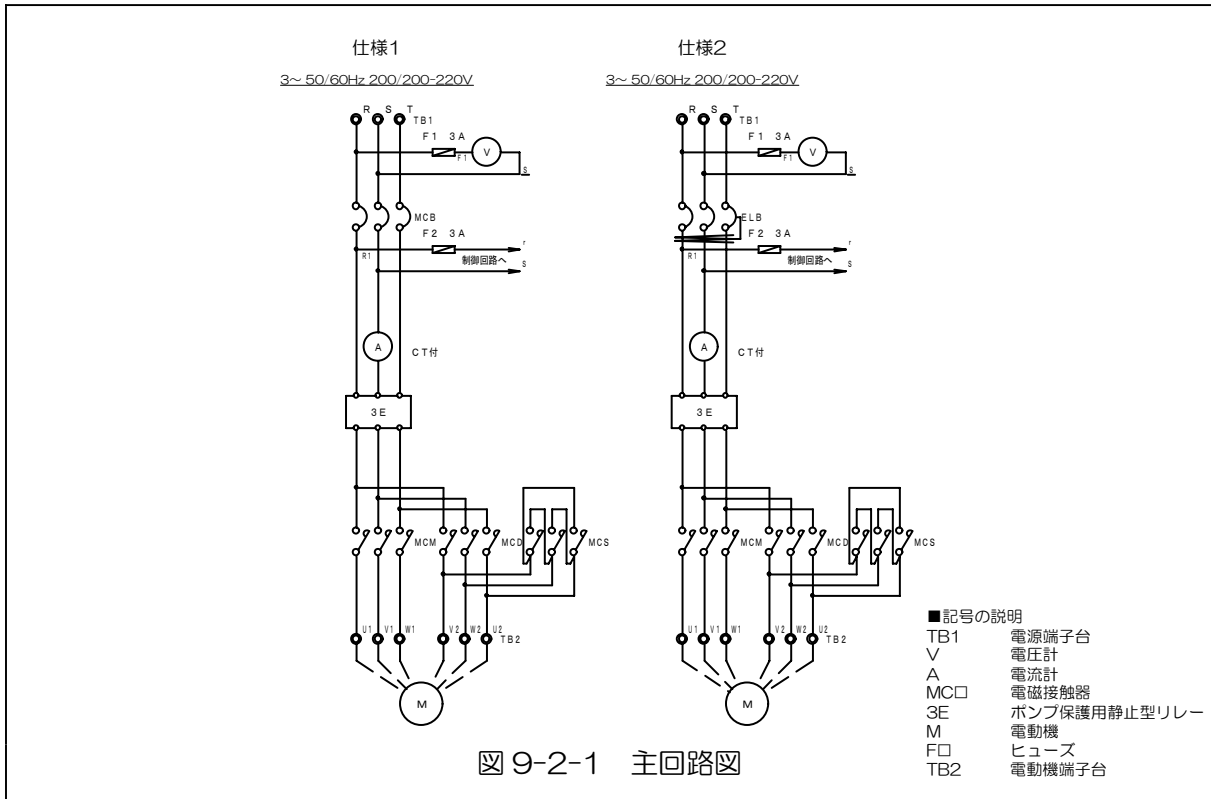
9.1 BFL

仕様により主回路図が異なります。詳細は納入仕様書をご参照ください。



9.2 BFS

仕様により主回路図が異なります。詳細は納入仕様書をご参照ください。





テラル株式会社

www.teral.net

本社	広島県福山市御幸町森脇230	〒720-0003	TEL.084-955-1111	FAX.084-955-5777
東北支店				
仙台営業所	仙台市宮城野区銀杏町39-25	〒983-0047	TEL.022-232-0115	FAX.022-238-9248
札幌営業所	札幌市中央区北11条西23丁目1-3	〒060-0011	TEL.011-644-2501	FAX.011-631-8998
北東北営業所	盛岡市津志田南2丁目12-27	〒020-0839	TEL.019-601-8818	FAX.019-601-8819
郡山営業所	郡山市島1丁目13-9	〒963-8034	TEL.024-922-5122	FAX.024-922-4226
北関東支店				
大宮営業所	さいたま市見沼区大和田町2-1018-2	〒337-0053	TEL.048-681-7822	FAX.048-681-7082
新潟営業所	新潟市中央区山二ツ5丁目6-21	〒950-0922	TEL.025-287-5032	FAX.025-287-3719
長岡営業所	長岡市宮岡3丁目1-21	〒940-2021	TEL.0258-29-1725	FAX.0258-29-2369
水戸営業所	水戸市白梅4丁目2-16	〒310-0804	TEL.029-224-8904	FAX.029-231-4044
土浦営業所	牛久市ひたち野西4丁目22-3 オーシャンパドラー フロアC	〒300-1206	TEL.029-870-2760	FAX.029-870-2761
宇都宮営業所	宇都宮市鶴田町3333番地18	〒320-0851	TEL.028-346-3400	FAX.028-346-9432
前橋営業所	前橋市元総社町84-3	〒371-0846	TEL.027-253-0262	FAX.027-253-0278
東京支店	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-6751	FAX.03-3818-6763
城東第1・第2営業所			TEL.03-3818-7769	FAX.03-3818-6763
城西第1・第2営業所			TEL.03-3818-6752	FAX.03-3818-6763
アクアシステム関東営業所			TEL.03-5684-0238	FAX.03-5684-0218
東京開発グループ			TEL.03-3818-6846	FAX.03-3818-6763
立川営業所	立川市幸町3丁目32-9	〒190-0002	TEL.042-536-2714	FAX.042-538-7080
千葉営業所	千葉市中央区今井町1493-4	〒260-0815	TEL.043-264-5252	FAX.043-226-7353
横浜営業所	横浜市神奈川区新浦島町1丁目1-25(テクノウェイブ100 10F)	〒221-0031	TEL.045-450-5351	FAX.045-450-5352
東京支社				
東京産業システム1課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-8101	FAX.03-3818-6798
東京産業システム2課			TEL.03-5805-1311	FAX.03-3818-6798
東京環境システム1課			TEL.03-3818-7800	FAX.03-3818-5031
東京環境システム2課			TEL.03-3818-7766	FAX.03-3818-5031
東京環境システム3課			TEL.03-3818-7800	FAX.03-3818-5031
東京環境システム4課			TEL.03-3818-7799	FAX.03-3818-5031
東京施工管理1課・2課			TEL.03-3818-7764	FAX.03-3818-6437
市場開発課			TEL.03-3818-6846	FAX.03-3818-5031
ソリューション技術1課			TEL.03-6891-7800	FAX.03-3818-5031
ソリューション技術2課			TEL.03-6891-7800	FAX.03-3818-5031
ソリューション技術3課			TEL.03-6891-7800	FAX.03-3818-5031
北陸支店				
金沢営業所	金沢市松島2丁目18	〒920-0364	TEL.076-240-0350	FAX.076-240-0357
富山営業所	富山市田中町2丁目10-24	〒930-0985	TEL.076-433-2151	FAX.076-432-8234
福井営業所	福井市問屋町3丁目501番地(ウイング八田101号)	〒918-8231	TEL.0776-28-5361	FAX.0776-28-5362
中部支店				
名古屋営業所	名古屋市中区伊勢山1-1-19(名古屋急送ビル 6F)	〒460-0026	TEL.052-339-0871	FAX.052-339-0895
名古屋環境システム課			TEL.052-339-0875	FAX.052-339-0895
名古屋産業システム課			TEL.052-339-0891	FAX.052-339-0895
産業システム開発課			TEL.052-339-0891	FAX.052-339-0895
アクアシステム中部営業所			TEL.052-332-6510	FAX.052-332-6513
静岡営業所	静岡市駿河区豊田3丁目2-15	〒422-8027	TEL.054-285-3201	FAX.054-284-1831
沼津営業所	沼津市若葉町3-10	〒410-0059	TEL.055-923-1377	FAX.055-923-3449
浜松営業所	浜松市東区丸塚町132-1	〒435-0046	TEL.053-463-1701	FAX.053-464-1818
岐阜営業所	岐阜市六条南3丁目7-11	〒500-8358	TEL.058-271-6651	FAX.058-271-7379
大阪支店				
大阪営業所	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8882	FAX.06-7711-5554
アクアシステム近畿営業所			TEL.06-7711-8883	FAX.06-7711-5554
大阪開発チーム			TEL.06-7711-8887	FAX.06-7711-5554
大阪環境システム課			TEL.06-7711-8885	FAX.06-7711-5554
大阪施工管理課			TEL.06-7711-8885	FAX.06-7711-5554
大阪産業システム課			TEL.06-7711-8884	FAX.06-7711-5554
ソリューション技術大阪G			TEL.06-7711-8886	FAX.06-7711-5554
南大阪営業所	堺市北区百舌鳥梅町3丁目47-1(グレース中百舌鳥キョウ2A号室)	〒591-8032	TEL.072-253-4391	FAX.072-253-6966
滋賀営業所	守山市守山2丁目16-38-103	〒524-0022	TEL.077-583-3666	FAX.077-583-3685
京都営業所	京都市伏見区竹田中川原町359番地(TMKビル 1F)	〒612-8412	TEL.075-647-1550	FAX.075-647-1537
神戸営業所	神戸市中央区多聞通2丁目4-4(ブックローン神戸ビル 7F)	〒650-0015	TEL.078-382-1991	FAX.078-382-1993
姫路営業所	姫路市栗山町111	〒670-0954	TEL.079-281-5511	FAX.079-281-1487
中国支店				
広島営業所	広島市西区三篠町3-12-21(第2ベルビィ三篠 1F)	〒733-0003	TEL.082-537-0660	FAX.082-537-0678
福山営業所	福山市御幸町森脇337-2	〒720-0003	TEL.084-961-0222	FAX.084-961-0211
米子営業所	米子市上福原5丁目1-50	〒683-0004	TEL.0859-32-2970	FAX.0859-32-2971
岡山営業所	岡山市北区上中野2丁目24-14	〒700-0972	TEL.086-241-4221	FAX.086-241-4230
四国支店				
高松営業所	高松市東八ヶ町4-5	〒761-8054	TEL.087-867-4040	FAX.087-867-4042
松山営業所	松山市朝生田町2丁目1-33	〒790-0952	TEL.089-935-4335	FAX.089-935-4331
九州支店				
福岡第1・第2営業所	福岡市博多区山王1丁目6-3	〒812-0015	TEL.092-474-7161	FAX.092-474-7167
北九州営業所	北九州市小倉北区中井5丁目11-13	〒803-0836	TEL.093-571-5731	FAX.093-591-0192
久留米営業所	久留米市山川追分1丁目4-24	〒839-0814	TEL.0942-88-5825	FAX.0942-88-5823
大分営業所	大分市仲西町1丁目10-15	〒870-0135	TEL.097-551-1857	FAX.097-552-0589
熊本営業所	熊本市東区上南部2丁目7番12号	〒861-8010	TEL.096-380-8388	FAX.096-380-1795
アクアシステム九州営業所			TEL.096-388-6615	FAX.096-388-6616
長崎営業所	長崎市大橋町7-5(横山ビル 1F)	〒852-8134	TEL.095-848-2221	FAX.095-848-5137
宮崎営業所	宮崎市大字芳土870	〒880-0123	TEL.0985-39-1577	FAX.0985-39-1089
鹿児島営業所	鹿児島市荒田2丁目59-11	〒890-0054	TEL.099-253-4321	FAX.099-253-4325
沖縄営業所	豊見城市嘉数595-6	〒901-0202	TEL.098-891-6151	FAX.098-891-6152

●駐在所 長野、徳島、高知、山口

修理・サービスのご利用は最寄りの支店・営業所へご連絡ください。

テラルテクノサービス株式会社